(2019.4改正)

**＜別紙１＞**

**第三者評価結果報告書**

①第三者評価機関名

|  |
| --- |
| ソキウスコンサルテーションズ株式会社 |

②施設・事業所情報

|  |  |
| --- | --- |
| 名称：キンダーガーデンりんかん | 種別：保育所（認可保育園） |
| 代表者氏名：田中和子 園長 | 定員（利用人数）：80名(72名) |
| 所在地：神奈川県大和市中央林間3-27-7　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 |
| TEL：046-277-8010 | ホームページ：https://www.shinkou-kai.jp/ |
| 【施設・事業所の概要】 |
| 　開設年月日　平成３０年4月1日 |
| 　経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人　新考会 |
| 　職員数 | 常勤職員：　　　　　　14名 | 非常勤職員　　　　　　　　３名 |
| 　専門職員 | 園長　　　　　　　　　　１名 | 保育士　３名 |
| 保育士　　　　　　　　１２名 |  |
| （事務職員）　　　　　　１名 |  |
| 　施設・設備の概要 | （居室数）事務室、クラス室、 |  |
| 一時預かり室、相談室他　7室 |  |

③理念・基本方針

|  |
| --- |
| 「理念」子ども達の成長を見守り、足跡を未来につなげる。～君たちの足跡を残したい。～「基本方針」社会の変化と子ども達の育っていく環境はめまぐるしい程の変化をしています。日本の国内にとどまらず、世界に広がっていく社会環境の中で適用できる子どもとして育っていけるよう子ども達の育っていく道すじをしっかりとみつめながら、「環・食・知」をバランスよく育てていきたいと思います。 |

④施設・事業所の特徴的な取組

|  |
| --- |
| ・はだし保育を取り入れることで、土踏まずの形成促進や、足の裏の刺激による体全体の成長を促しています。・子ども達の意見や会話を大切にし、行事内容を子ども達と一緒に作り上げています。・園外散歩を通して、地域の人との交流や、体力の向上を進めています。・個人絵本を購入していただき、保育の中に取り組むことで、絵本に親しむこと・自分の物を大事にすることを育んでいます。・0歳児は、乳児用ノートの活用。1～5歳児（卒園まで）個別連絡ノートの活用。毎日の様子等を保護者とやりとりすることで、連携をより密にしていいます。・親子陶芸・ラQ講座等の地域子育て支援に関しての取り組みを行っています。・栄養士による月1回の食育講座、看護師による健康教育を行っています。 |

⑤第三者評価の受審状況

|  |  |
| --- | --- |
| 　評価実施期間 | 　令和３年８月１日（契約日）　～令和４年３月１１日（評価結果確定日） |
| 　受審回数（前回の受審時期） | 　　　　　　初回（　　　　年度） |

⑥総評

|  |
| --- |
| ◇特に評価の高い点１．理念のもと、園長はじめ全職員が、日々保育の質の向上に努めています。　　保育理念に「子どもたちの成長を見守り、足跡を未来につなげる。～ 君たちの足跡を残したい ～」と謳われ、この保育園で学んだこと、成長したことを将来大人になって振り返っても実感でき、良い思い出として残ることを大切にしています。現在のみならず、子どもたちの将来までも視野に入れた保育が実践されています。職員の間でもこのことが浸透し、この理念の意義、意味するところをよく理解し、さらに深める努力をしています。職員会議、日々のミーティングなど職員が集まる機会には確認しあっています。また、事務室の出入り口に保育目標が掲示され、毎日目にし、心新たに再確認し、保育に取り組んでいる姿勢が感じ取れます。子どもにとって生涯にわたる人間形成で極めて重要な時期に、この理念のもと園長以下全員が心を一つにして、子どもの人生を大切にし、保育の質の向上に取り組んでいます。２．職員は、チームワークを発揮して互に助け合い、子どもの成長をしっかり後押ししています。職員は互いに連携・協力し助け合い、チームワークを発揮しながら子どもの成長をしっかり後押し、保育の向上に努めています。職員同士の意思疎通が図られているので、日々の連携が円滑に行われています。常に相手の立場にたって行動することで職員間の風通しが良好なものになっています。また、担当職員だけで悩まず他の職員が親身になってフォローし合っています。今回の訪問調査においても、多くの職員がこのことを心に留め、日々の保育に臨んでいることがヒアリングなどから確認できました。また、保護者アンケートの結果でも「職員の対応」に関する項目は高く評価されていますが、その背景には職員間の連携・協力、良好なチームワークがあります。この体制をしっかり維持・継続・発展していくことを期待します。３．栄養士と保育士の連携により子どもに食事の楽しさを伝えています。乳幼児期に豊かで正しい食体験を重ねることは、生涯にわたる基本的生活習慣の基礎づくりであると捉え、栄養士と保育士が連携して食育活動に取り組んでいます。栄養士が日常的に保育に関わっており、保育士と情報共有ができています。特に離乳食は子どもごとに一人ひとりの発達の状況に応じて食べ物の固さを調整して調理するなど、きめ細かい対応ができています。月１回の食育に関する啓蒙、更には健康教育で子ども自らができるように、自立支援に取り組んでいます。◇改善を求められる点１．人材育成プログラムの見直し・改善が必要と考えます。　　当園の人材育成は、キャリアパス（**目標とするポジションやキャリアに向かって、必要なステップを踏んでいくための順序や道筋を示したもの）**を骨幹とし、職員個人の職務能力の向上は研修とOJT（職場での実践を通じての育成）を主体としています。　**職位、主な職責、求められる能力などの区分原理、それぞれの項目の内容に不整合となっている部分が見受けられます。また、OJTに関しても、職務遂行能力に偏りや欠落がないように更なる的確な管理が必要と思われます。人材の育成には長い年月を要し、地道な努力・積み上げが必要です。この機会に、キャリアパスをはじめプログラム全体の見直し・改善に取り組まれることが望まれます。**２．事業計画の柔軟性について改善・向上が必要と考えます。　　計画の実施段階では状況や環境が変化し、それに対応するため常に柔軟性の保持が必要です。保育園の事業計画もまた然りです。今般の新型コロナの流行で多くの行事が中止または大幅変更を余儀なくされることになりました。発生当初は未曾有の出来事に行事の中止、大幅な規模縮小も止むを得ないと考えます。次年度からは引き続きの中止や大幅縮小ではなく、代替案を準備することによる柔軟な対応が求められるところです。今回の保護者アンケートでも、行事に関し、柔軟な対応を期待・要望する声が寄せられています。新型コロナは今後も予断を許さない状況であり、計画段階からの柔軟な対応が必要と考えます。３．災害対応について、事業継続計画（BCP）の視点も含めた総合的な対処計画への拡充・発展が期待されます。　　災害対応についての現状は、地震と火災を主要な脅威とし、ハザードマップなどを考慮し避難訓練、保護者との連絡、非常食の備蓄が主な内容となっています。消防署との連携のもと年2回の通報訓練も実施しています。災害対応については、地震、火災に止まらず、風水害、パンデミック、社会インフラの破壊、さらには火山の噴火など幅広い脅威への対応が求められています。被災時には保護者が速やかに仕事に復帰できるように子どもを預かり、復旧に貢献することが園の事業計画に謳われていますが、このためにも園が潰れないための「防災」と被害を受けてもすぐに復旧する強い復元力求められ、まさに事業継続計画の考え方、作成プロセスなどを取り入れた災害対処計画に発展的に移行されることが期待されます。 |

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

|  |
| --- |
| 今回、初めての第三者評価受審にあたり、様々な視点から振り返り、見直す良い機会となりました。 職員全員で日々の保育活動で取り組んでいること、工夫していることを確認し、改善すべき点を話し合って多くの気づきが発見できたのは、とても有意義なことでした。 受審結果を振り返り、良い点は励みにしながら維持していき、改善点については、職員と共に園全体で取り組んでいきます。 最後に、お忙しい中、アンケートにご協力いただきました保護者の皆さま、細部まで評価して下さった評価機関の皆さまに、心より感謝申し上げます。 ありがとうございました。 |

⑧第三者評価結果

　　別紙２のとおり